

【パネルディスカッション】安全で適正な輸血のために

演者：自治医科大学附属さいたま医療センター
臨床検査部 主任 武関 雄二

【はじめに】当センターは 16 診療科、許可病床数 608 床（一般：568、I C U ・ C C U ： 20、救急：20）、平成 20 年度の 1 日平均外来患者数 1,157 人、1 日平均入院患者数 378 人である。2003 年 9 月に救急告示病院に指定され、2006 年 4 月に日本医療機能評価機構の認定を受けた。1989 年 12 月からオーダリングシステムを導入し、24 時間体制で安全で適正な輸血業務に役立てている。

【現状】輸血業務は、電子カルテシステム・輸血検査システム・Auto Vue Innova を連動し、業務の効率化、検査の標準化、安全性の向上に努めている。また、検体取り違い事故防止対策として 2 回以上の血液型検査を実施している。さらに、血液型バンドの発行、毎日の精度管理、検体・使用済み血液バックの保存を行い、指紋認証システムの運用により全て記録を保存している。

【結語】当センターのシステムにより検査業務、事務処理の省力化・合理化・迅速化、輸血過誤の防止、血液製剤の有効利用、患者サービスの向上が可能となった。これからの課題は、臨床側の要望を取り入れた業務の向上と人員の確保である。さらに、患者認証システムを導入して安全性の向上に努め、輸血管理委員会の協力を得て適正輸血を推進したい。